

## 令和5年度事業計画

畜産・食肉産業を取り巻く環境は、令和2年以降の新型コロナウイルス感染症の影響により、令和5年度を迎える現在も、未だ先行きの不透明感が拭えない状況が続いています。コロナ禍以前の和牛の販売先は、インバウンドや高級飲食店が中心だったのに対し、令和2年以降は巣ごもり需要の増加により、スーパーなどの家庭消費向けにシフトされるなどの変化が見られました。その結果、コロナ禍で落ち込んだ牛肉の消費量も、令和4年度に入り回復傾向で推移しています。

一方、令和2年12月に策定された「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」により、政府一体となって更なる輸出拡大に取り組んだ結果、令和4年の牛肉輸出量は前年の7,879トンと比べても99.6%の7,847トンを維持しています。引き続き、和牛の価値が世界中で認められ、輸出が伸びるよう期待されるところです。

このような状況においても、当社は畜産農家、卸売業者並びに一般消費者を対象に、加古川食肉センターの運営を通して、広域的な食肉供給拠点としての役割を果たし、安定的に食肉を供給できるよう、令和5年度においても、関係機関との連携を図りながら中長期経営計画に基づき、7,500頭のと畜頭数を確保するように努めるとともに、下記の取組みを進めていきます。

### 記

#### 1 牛の集荷活動

食肉の安定供給につながるよう、牛の搬入数を増加させるため、当社と加古川食肉産業協同組合及び加古川中央畜産荷受株式会社が協力し合い、兵庫県内をはじめ、近畿、中四国などの畜産農家を直接訪問するなど、牛の出荷要請活動を積極的に進めていきます。

#### 2 施設の計画的な修繕

建物や設備が老朽化する中、定期メンテナンスを行いながら、緊急の修繕が必要かつ重要な設備を最優先にして、計画的な改修を進めていきます。なお、令和5年度は大規模な修繕として、令和2年度から段階的に行っている空調機器等の更新を予定しており、対象は次のとおりです。

<空調機器等の更新>

- ① 冷蔵庫及び冷凍庫 5か所
- ② 保留庫 2か所
- ③ 第1キュービクル

#### 3 輸出施設としての認証取得及び販路拡大

海外での和牛需要が旺盛であることから、新たな輸出先の開拓が重要になっています。このため、台湾等への輸出施設としての認証を取得し、販路の拡大につながるよう、HACCP方式による継続的な衛生管理の取組みを進めていきます。

#### 4 経費の削減

施設の老朽化による維持補修費が増加していることから、小規模な修繕については自ら対応

できるよう、保守要員の確保に向け募集しているところですが、施設の規模や機器の特殊性から実現に至っておらず、引き続きハローワーク等との連携に努めます。また、光熱水費の予算の執行状況について、令和2年度から取り組んでいる施設の掲示板への掲示を継続し、加古川食肉センターの多くのステークホルダーに対して、節約に対する意識の向上を促していきます。

## 5 地域ブランド牛の普及推進及び収益活動

高品質な地域ブランド牛である「加古川和牛」及び安全・安心で手頃な価格の「志方牛」の普及に努め、特産品としての地位をより一層高めることで、地域食肉産業の充実を図っていきます。

コロナ禍において、十分なPRができませんでした。加古川市民を中心に周辺地域住民にも愛されるブランドとして普及させていくため、農林漁業祭をはじめ、JA兵庫南ふぁーみんフェスタなどの各種イベントを通じて、ブランド牛の普及推進に取り組んでいきます。

そして、と畜頭数の確保が困難な中でも、消費者に食肉の魅力を伝え、加古川食肉センターの存続意義や付加価値を高めることで、加古川食肉センター全体の収益につながる活動に取り組めます。